



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	第5学年 音楽「曲の特徴を生かして工夫して演そうしよう」(II 実践報告 アクティブ・ラーニングの授業実践5) (fulltext)
Author(s)	垣浪,文美香
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属大泉小学校, 28: 286-290
Issue Date	2017-08
URL	http://hdl.handle.net/2309/148834
Publisher	東京学芸大学附属大泉小学校
Rights	

8 アクティブ・ラーニングの授業実践⑤

第5学年 音楽「曲の特徴を生かして工夫して演そうしよう」

実施 平成29年1月

対象 5年きく・ゆり組 36名

授業者 垣浪 文美香

1. 題材名 「曲の特徴を生かして工夫して演そうしよう」

2. 題材の目標

曲の特徴や原曲の楽器の音色を意識し、各パートに合う音の出し方や曲想に合う表現を工夫し、互いの音を聴き合いながら友達と合わせて演奏する。

3. 評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
学習活動に即した具体的評価規準	<p>① 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ 同じパートの友達の音を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>① 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>② 互いの楽器の音を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音の出し方について、自分の考えや意図をもっている。</p>	<p>① 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏している。</p> <p>② 曲想にふさわしい表現で演奏している。</p> <p>③ 友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。</p>

4. 題材について

(1) 題材設定の理由と児童の実態

本楽曲は、2月に行う校内音楽会で合奏するために、12月から練習を始めた。児童の練習への意欲は高く、熱心に取り組んできた。1学期には、「茶色の小びん」のリコーダーと鍵盤ハーモニカの合奏に取り組み、リズムや速さを意識して友達と合わせることができた。児童は、正確に音を出すことはできるが、音色を意識して聴き、音の出し方を考えたり、フレーズを意識したりして表現することに対しての経験が少ない。本楽曲の特徴は、雄大な旋律の下に、一定のリズムが刻まれているところである。雄大な旋律を奏でる原曲のトランペットとホルンの演奏の特徴は、大きなフレーズ感や伸びやかな音色である。本題材では、リコーダーはトランペット、鍵盤ハーモニカはホルンの演奏に近付けるように、音の出し方を工夫する。本時では、雄大な旋律に合う音の出し方を工夫する。トランペットやホルンの音色の特徴の一つである「伸びやかな音」を出すためのポイントとなる、音の長さやフレーズ感などについて、最初に全体でおさえず、友達と音の出し方を試行錯誤する中で気付けるように工夫の余地を持たせた。児童が音の出し方を工夫することで、リコーダーや鍵盤ハーモニカで雄大な旋律を表現できるこ

とや、曲のよさや面白さに気付くことを期待したい。

(2) 教材について

「シンクロ BOM-BA-YE」 (佐藤直紀作曲 小島里美編曲)

話題となったドラマ「ウォーターボーイズ」のテーマ曲で、児童に耳馴染みがあり、親しみを持って取り組めると考えた。この曲の特徴は、スケールの大きな旋律が展開され、その下に一定の躍動感のあるリズムが刻まれているところである。原曲で旋律を主に演奏しているのは、金管楽器のトランペットとホルンで、伸びやかでなめらかな音色が、雄大さを表現している。原曲のトランペットとホルンの音色に注目して聴くと、曲の特徴である「雄大な旋律」を児童が捉えやすいと考え、本題材にこの曲を教材として選んだ。リコーダーはトランペットに、鍵盤ハーモニカはホルンの演奏に近付けるように、音の出し方を工夫することで、音色が変わり、雄大さを表現できることを感じてほしい。また、本題材を通して、曲に向き合い、曲の特徴を生かして表現を工夫することの楽しさや、曲のよさをみつけて聴く喜びを感じ、生涯にわたって音楽を楽しむ態度を育成することを目指していく。

(3) 学習指導要領との関連

【A表現・器楽】

- ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
- イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
- ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【共通事項】

- ア (ア) 音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、拍の流れ
- (イ) 問いと答え

(4) 指導計画 (13時間扱い・本時6/13)

時	○学習内容	◆主な評価規準
＜第1次＞ねらい 楽曲全体の雰囲気をつかんで、自分のパートを演奏する。		
1	○「シンクロ BOM-BA-YE」の原曲を聴き、楽曲全体の雰囲気を感じ取り、楽譜を見て階名唱する。	◆範奏を聴いたり、楽譜を見たりして進んで階名唱をしている。(関①観察)
2	○自分のパートのG～Jの部分の旋律をつかむ。	◆範奏を聴いたり、楽譜を見たりして自分のパートを正しく演奏している。(技①演奏聴取)
3	○自分のパートのB～Fの旋律をつかむ。	
4	○リコーダーと鍵盤ハーモニカの各3グループ	◆範奏を聴いたり、楽譜を見たりして自分のパートを正しく演奏している。(技①演奏聴取)
5	毎に、音とリズムに気を付けて練習する。	
＜第2次＞ねらい 音色に気を付けて同じパートや違うパートの友達と音を聴き合いながら演奏する。		
6 本 時	○同じパートの各3グループで、どうすればトランペットやホルンのような音が出るのかを考え、音の出し方を工夫する。	◆同じパートの友達と音を聴きながら、音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(関③観察)

		◆旋律の特徴に合う音の出し方を考え、同じパートの友達と音を出し合い、聴き合いながら工夫している。 (創造②・発言・学習カード)
7	○音を合わせ、クラス全体で合奏する。	◆違うパートの友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。(技③演奏聴取)
＜第3次＞ねらい 色々な楽器の音が重なる楽しさを感じながら、曲想にふさわしい表現を工夫して演奏する。		
8 ～ 13	○学年全体で音を合わせて合奏する。	◆曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(関②観察) ◆曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。(創①観察・発言) ◆曲想にふさわしい表現で演奏している。(技②演奏聴取)

5. 「アクティブ・ラーニング」の視点

教育課程企画特別部会の論点整理より、次の学習指導要領に向けて、現行学習指導要領の成果と課題として挙げられたことを、以下に抜粋する。「音楽科、芸術科（音楽）においては、（中略）思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、（中略）生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、現行の学習指導要領に改訂されその充実が図られてきているところである。一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりすること（中略）については、更なる充実が求められるところである。」

上記の成果と課題を受け、本実践における「アクティブ・ラーニング」の視点を2つ設定した。一つ目は、各グループのリーダーと副リーダーを中心に行うグループ活動である。友達と協働しながら、本楽曲の特徴である「雄大な旋律」に合う音の出し方を工夫する。二つ目は、「曲と自分」と向き合い、「この曲の好きなところはどこか」「この曲のよさはどんなところか」と考え、曲に対する思いを持って曲の特徴に合った音色の表現を工夫することである。「リコーダーと鍵盤ハーモニカで、どんな音の出し方をすれば原曲のトランペットとホルンのように雄大な旋律を演奏できるのか」と思考し音の出し方を工夫する。これまで、音色を意識し音の出し方を工夫する経験が少ない児童が、試行錯誤しながら音が変わっていくことを実感したり、トランペットやホルンのなめらかな音色が出せたときに喜びを味わったり、楽曲のよさを感じ取ったりする姿を目指し、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育みたい。

6. 本時について

(1) 本時の目標

楽曲の旋律の特徴に合う音の出し方を工夫している。

(2) 本時の展開

○学習内容 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点
○原曲の金管楽器の音色と旋律の特徴をつかみ、 本時のめあてを確認した。 ・一つ一つの音が伸びている。 ・タンギングがはっきりしている。	◇盛り上がりの部分の、トランペットとホルンのみが録音された演奏を聴き、金管楽器の音色と雄大な旋律の特徴を捉えられるようにした。

音がのびてきこえるためには、どうしたらいいのかな？発見しよう！

○同じパートのグループごとに、どうすればトランペットやホルンのような音が出るのかを考え、音の出し方を工夫した。

リコーダーグループ：A・B・C

鍵盤ハーモニカグループ：A・B・C

- ・音を長くのばし気味にするとなめらかになる。
- ・ゆったりした感じを出したいので、ここからここまでは一息で吹くといいよ。



鍵盤ハーモニカでは、息の使い方が工夫できそう。

トランペットは拍通りでなく、ゆっくりなっている音がある。

○ふりかえり

- ・トランペットは伸ばす部分が自分たちとは違っていた。
- ・盛り上がりの雄大な旋律が好きになりました。



息継ぎの場所を、2カ所のうちどちらにするのか、もしくはしないか、話し合いました。

CDのトランペットは、最後の伸ばす音が段々弱くなっていました。

「3分間作戦会議」を設け、リコーダーパート、鍵盤ハーモニカパートの各3グループ各6人でどのような工夫ができるのか話し合い、その後のグループ活動が円滑に進められるようにした。

◇リコーダーグループと鍵盤ハーモニカグループの教室を分け、それぞれの音に集中して聴くことができるようにした。

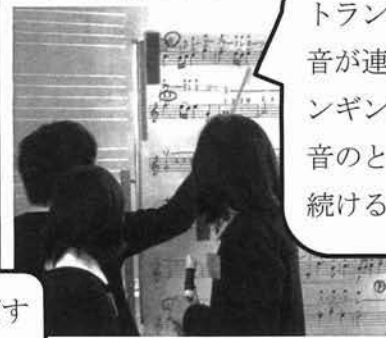
◇意見をワークシートに記し、実際に音を出して試すこと、必要ならば原曲のCDを聴き確認することを伝えた。

◇意見が出にくいグループには、どのような音を出したいのかを聞き出し、言葉で表せるようにした。



ぎりぎりまで音を伸ばしてから息継ぎしよう。

◇意見が活発に出ていたところや、雄大な旋律に合う音の出し方を工夫できていたグループを取り上げて共有した。



トランペットのように、細かい音が連続しているところは、タンギングをしっかりと、長い音のところは、できるだけ音を続けるようにしました。

(3) 本時の評価

- ◆同じパートの友達と楽器の音を聴きながら、音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(関③観察)
- ◆旋律の特徴に合う音の出し方を考え、同じパートの友達と音を出し合い、聴き合いながら工夫している。(創造②・発言・学習カード)

7. 考察

本時の学習での成果は、音が伸びてきこえるために、息継ぎの場所に注目することや、細かいリズムと長い音の部分とのタンギングの違いなどに気付き、どのグループも活発に意見を出し合い、音の出し方を工夫することができた。また、手本となるトランペットとホルンの演奏のCDを聴き、自分たちの

演奏とどこが違うのか、比べながら聴き、工夫したことを、実際に音を出して試すことができた。

課題として、息継ぎする場所を小節ごとに設定し、試していたグループがあったので、旋律のまとまりで息継ぎを考えていく助言をするとよかった。また、演奏の変容を自分自身で実感することが十分にできなかったと考えられるので、録音した自分たちの演奏を聴く機会をつくるとよかった。自分たちの演奏を客観的に聴くことにより、改善点を見出し、演奏をよりよいものにしていくことができる。